

# セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ

## セアカゴケグモとは？

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasselti*)

### 【特定外来生物】

原産地：オーストラリア、東アジア、南太平洋諸国

雌に $\alpha$ -ラトロトキシンという神経毒があり、咬まれると激しい痛みや腹部痙攣を生じさせます。日本では咬傷被害による死亡例はありません。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在は日本各地で生息が確認されています。

愛媛県では、2014年に初確認され、その後は各地で散発的に確認されている状況です。

### ■生息場所

自然環境では岩下の隙間や窪みに営巣しますが、住宅地の人工的環境ではエアコン室外機裏や、道路側溝、自動販売機裏、フェンス基部、長期間放置した車両等に営巣していた事例があります。

### ■営巣

地上部に営巣するクモと異なり、不規則な管状の巣を地表の隙間に作ります。巣には落ち葉等が付着し、クモの巣と判断できないことがあります。

### ■産卵と幼体

野外では一生の間で最大7～8卵嚢を産みます。1卵嚢あたりの卵数は100～200個で、産卵後約20日で幼体が出囊し、雌は約70日、雄は約40日で成熟します。

## 営巣場所と営巣状況

### エアコン室外機の下



### 側溝のグレーチングの下



## ゴケグモ類の外観的特徴

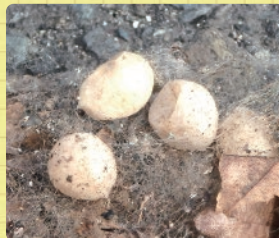


セアカゴケグモ

体長 ♀:7-10 mm  
♂:2-3mm

不規則な白斑紋が出る場合があります。

背には黒地に赤い斑紋



▲セアカゴケグモの卵嚢

1つの卵嚢には100～200個の卵が入っています



ハイロゴケグモ

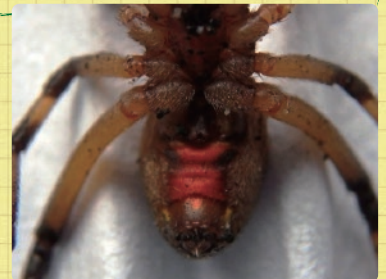
ハイロゴケグモは体色の変異が大きい。

### 腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋

ハイロゴケグモなど、他のゴケグモ属のクモにも共通する特徴です。



▲セアカゴケグモ腹部腹面



▲ハイロゴケグモ腹部腹面

## ★ 人家周辺で見つかりやすい セアカゴケグモに似た無毒のクモ



写真提供：鶴崎展巨教授(鳥取大学)

### オオヒメグモ♀

人家周辺でもっともよく見られる在来種のヒメグモ(無害)



写真提供：鶴崎展巨教授(鳥取大学)

### マダラヒメグモ♀

人家周辺でよく見られる外来種のヒメグモ(無害)

2種共に、腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋はありません。